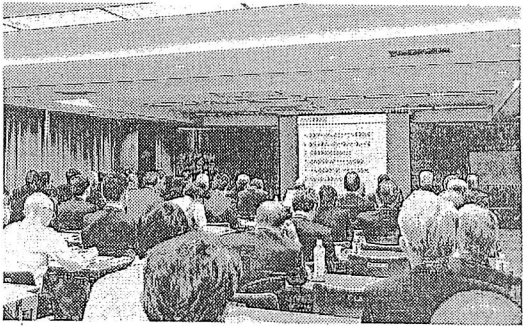


2016年(平成28年)11月21日(月曜日)

# 非鉄Rテーマに講演会

## レアメタル資源再生技術研究会 資源安のなか関心高く

レアメタル、レアアース(希土類)などの一産業官の関係者でつく



講演会のようす

るレアメタル資源再生技術研究会(岐阜県各務原市、藤田豊久会長)は11月7日、名古屋市内工業研究所を会場に第13回となる講演会を開催した。「資源安のなかでのリサイクルはどうか」非鉄金属精錬のリサイ

クルの現状と今後」をテーマに講演を行い、120人を超える参加者が熱心に耳を傾けた。

今回の講演会では、国内の主要な非鉄製錬メーカー5社が、自社のリサイクル原料を用いた事業について紹介した。鉄・非鉄ともに金属スクラップの市況が不調ななかでの開催とあってリサイクル事業者の関心は高く、定員を超える参加者が詰めかけた。

講演。グループのマネリアルフローを紹介するとともに、近年注力するEスクリップ事業の状況も説明し、循環型ビジネスモデルをさらに進めていくと意気込みを語った。

続いては、DOW A エコシステムの川上智氏が「エコシステムの資源リサイクル事業」として講演。22鉱種もの元素を扱う同社では、銅・鉛・亜鉛の複合製錬システムと専門製錬を使い分けており、天然鉱石向けに発展してきた精錬技術は、構成物質が異なるリサイクル原料では難しい部分もあると指摘。適切な選別が重要だとした。

休憩後、登壇したのは住友金属鉱業の浅野聡氏。「ハイブリッド自動車用ニッケル水素電池のリサイクル技術について」を話した。氏は、同社がエコに取り組んでいない企業だとのイメージがあることに危機感があると述べ、国内唯一のニッケル精錬所を有する企業として、ニッケルとコバルトのリサイクル技術をPRした。

第5講は、三井金属鉱業・野田眞治氏の「精錬技術を活用したリサイクル製錬」。亜鉛・鉛精錬プロセスでのリサイクルを紹介するとともに、グループの三池製錬が実施する亜鉛プロセスでの低濃度PCB処理についても触れた。

次に、三菱マテリアの清谷謙二氏が「三菱マテリアのリサイクル事業について」を

**誠実に**

—産業廃棄物焼却処理 250T/D—

**HIRST 栃木ハイトラスト株式会社**

T321-4367 栃木県真岡市鬼怒ヶ丘18-3 ☎0285(83)3966

触れた。